

「大学院音楽研究科オペラ専攻（修士課程）設置計画」【予告】について

本設置計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会によって確定するものであり、変更があり得ます。

設置目的

国内はもとより、海外の主要なオペラ劇場やコンサートホール等において第一線で活躍できる卓越した人材、および舞台芸術家として高度な専門的知識や技能を有する歌手の育成を目的としています。

教育理念

これまで東京藝術大学声楽科は、教育研究の一環として声楽とオペラに関する人材育成を推進してきており、我が国における音楽芸術の振興・発展に寄与する有為な人材を多数輩出してきました。

この度、グローバルスタンダードのオペラ芸術へのさらなる進展を牽引し、よりグローバルに活躍できる人材育成を実行していくために、オペラ分野に係る教育研究を一層深化させる事にしました。

そのために、大学院音楽研究科声楽専攻を発展的に改組し、「オペラ専攻」と「声楽専攻」とに分け、其々に特化した専門的な技術・技能を総合的に学修出来る環境を作ることで、今まで以上に海外の主要な劇場や国際舞台で活躍できる人材を育成・輩出する為の教育研究を行います。

具体的には、

- ・ グローバルに活躍するオペラ芸術家の個人指導による発音・発声・歌唱表現・演技等の実技研究
- ・ 指揮やソルフェージュ、作曲、ピアノ等他専攻との連携強化による、総合芸術としてのオペラ制作
- ・ 国内外の歌劇場との連携によるインターンシップ
- ・ 社会と連携した芸術活動（公開講座、ワークショップなどの実施、地方の公共施設や国公立の芸術系大学と連携したオペラ制作など）

など、オペラ歌手に必要な歌唱力、テキスト解釈、舞台演技、多言語に亘るディクシオン(舞台語発音法)をはじめ高度な専門的能力、演技の表現能力や理論等を習得することを主旨としています。

カリキュラムの特色

従来の「オペラ歌唱」関連科目をより専門化すると同時に、各科目の連携を強化することで、オペラ歌唱に係る総合的教育を行い、オペラ史、作品分析や台本講読などによって音楽理論や他分野の芸術との関連、歴史・社会的背景などの理解を深めることを目指します。

必修科目

- ・ 声楽実習・楽曲分析演習I・II…学生の研究課題に応じて、オペラ歌手になるために必要な声楽技術・言語表現・音楽表現等を個人指導する
- ・ オペラ総合実習I・II…オペラ・ハイライト、オペラ定期公演におけるオペラ作品の実演を通じてオペラ歌唱・演技の特性を学修する
- ・ オペラ実習I・II…舞台上の身体表現、運動・演技能力を培う
- ・ オペラ特殊研究A…コレペティツィオンを通じてディクシオンを学び、ドラマの解釈を深め知識と創造性に富んだ表現を身につける
- ・ オペラ特殊研究B…正確なディクシオンを身につけ、歌詞や楽曲の理解・解釈を深め、歌唱表現を探究する

選択科目

<オペラ専攻専門科目>

オペラ台本講読、オペラ特殊研究C(オペラ史)、オペラ分析演習、インターンシップ

<大学院共通科目>

英語作文(演習)、英語アカデミック・スキル(演習)、音楽教育入門、音楽研究基礎(1)～(6)、音楽リサーチ法、原典特殊講義(英語・独語・仏語・露語・日本古典)、大学院研究基礎I・II(演習)、大学院論文作成I・II(実習)、レッスン研究

入学試験

1. 試験科目

- ・ 専門試験
歌唱実技試験（第1次、第2次）
新曲視唱（音大及び音楽関係学部・学科等の出身者には課さない。）
- ・ 語学
- ・ 基礎学科目（音楽史）

2. 歌唱実技試験（第1次、第2次）課題曲等

声種	課題曲等
ソプラノ (S) メゾソプラノ (Ms) アルト (A) テノール (T) バリトン (Br) バス (B)	<p>提出曲</p> <p>受験曲目提出用紙の書式に従って原語で記入すること。</p> <p>第1次試験：以下A分野より任意の1曲を提出する。</p> <p>第2次試験：以下A分野より任意の1曲（ただし、第1次試験の演奏曲として提出する曲目とは異なる曲目）、B分野より任意の2曲、C分野より任意の2曲を提出する。</p> <p>A分野：モーツァルト以降の作曲家（モーツァルトを含む。）によるオペラ作品の独唱曲。（コンサート・アリアを含む。）</p> <p>B分野：オラトリオ、ミサ曲、カンタータ等の宗教的独唱曲。 バロック・オペラ、世俗カンタータ、マドリガーレ等の世俗的独唱曲。</p> <p>C分野：歌曲</p> <p>※オペラ、オラトリオ等のアリアは原調・原語。歌曲分野についても原語とするが、移調は自由。（慣習的に認められている移調・言語はこの限りではない。）</p> <p>歌唱実技試験</p> <p>第1次試験：第1次試験の演奏曲として提出したA分野の1曲（4分以内）を暗譜で演奏する。</p> <p>第2次試験：第2次試験の演奏曲として提出したA分野の1曲と、</p> <p>【次ページに続く】</p>

声種	課題曲等
ソプラノ(S) メゾソプラノ(Ms) アルト(A) テノール(T) バリトン(Br) バス(B)	<p>当日、本学が記号（イ、ロ、ハ、ニ）で指定する2曲の計3曲を9分以内（曲間を含む。）にまとめて暗譜で演奏する。（各曲、適宜カットしてよい。）演奏曲順は自由。</p> <p>※第1次試験及び第2次試験ともに、演奏はピアノ伴奏とする。（志願者が伴奏者を同伴すること。）</p>
	<p>新曲視唱（音大及び音楽関係学部・学科等の出身者には課さない。）</p> <p>※上記出身者に該当するかどうか判断できない志願者は、事前に本学音楽学部教務係に問い合わせること。</p>

学生募集要項

平成27年7月中旬に配布予定です。

その他

「平成28年度からの教育研究組織の変更」は以下をご参照ください。

http://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/05/20150511Notice_H28EducationalOrganizationChange.pdf

以上